



共 育

1学期初めの大きな行事、運動会も無事に終わり子供達は落ち着いて学習に向かっています。

運動会ではたくさんのお客様にご来校いただき、子供達も日頃の練習の成果をお見せできたのではないかと思います。その際、準備や後かたづけにPTA役員さんを始め、たくさんの保護者の方々にお手伝いいただきました。応援に駆けつけてくれた中学生も一緒に手伝ってくれました。本当に多くの人に支えられ、成功裏に終わった運動会でした。ありがとうございました。

この後も、陸上競技大会や子ども会育成行事の相撲大会など、対外的な行事が予定されています。保護者の皆さまのご協力を引き続きお願いいたします。

<今年度力を入れている教育活動の様子から>

豊かな人間関係を基盤とした授業づくり

安心して自分の考えを伝え合うことができる学級づくりを目指します。

例えば、授業の中で、他と違う意見でも堂々と発表できる、考えが浮かばないときは分からないとすなおに言える、そんな雰囲気大切にします。お互いの考えの違いや同じ点を認め合い、よりよい答えに向かって考えを出し合うことで個々の思考の深まりを図ります。

～ 実際の授業から ～

5月11日(木) 6年 国語科 「笑うから楽しい」 筆者：中村 真(光村図書)

筆者の意図をとらえ、筆者の考えに対する自分の考えを発表し合う学習です。筆者が自分の考えを読者に理解してもらうためにどのような具体例を挙げているか、また相手に伝わりやすくするために文章の構成をどのように工夫しているのかをとらえます。その上で、筆者がいつている「笑うことで楽しい気持ちになれる」という考え方に共感できるかどうかを判断します。

そして、学級でお互いの考えを発表しあい、自分と違う意見や同じ意見を聴いて、最初に持った自分の考えを広げたり深めたりする学習を行いました。

・ほくは、筆者の意見に賛成です。実際に、笑って
みたら楽しい気持ちになったからです。

(みんなと交流した後の感想)

・最初は自分の経験だけで判断していたけど、○○
さんのように家の人から聞いた話なども参考にす
ればもっと考えが深まることが分かりました。



真剣な眼差しで友だちの意見を聴く6年生

「わたしたちの道徳」は道徳の授業で活用する読み物資料です。資料は低・中・高学年ごとに発達の段階に応じた内容になっています。その中から各学年共通のテーマを決め、ご家庭で読んでもらい、ご家族と語り合っていただく取組を行います。第1回目のテーマは『あいさつ・礼儀』でした。資料を読んで思ったことや話し合ったことがたくさん寄せられました。その中のいくつかをご紹介します。

1年：じぶんのかんそう

あいさつをしなければ、あいてもあいさつをしてくれません。だから、あいさつをしよう。ほくもいっぱいあいさつをするよ。

お家の方から

あいさつをしないと淋しい気持ちになったり嫌な気持ちになるからあいさつをしようと思うと話していました。自分のことだけでなく相手のことも考えられるようになったんだと成長をうれしく思いました。

5年：自分の感そう

**わたしは「真心」という言葉を聞いたことはあったけど「真心」について考えたことがなかったの
でじっくり考えられて良かったです。いつもあ
っている友だちにも礼儀正しくしたいです。**

お家の方から

「心を形で伝える」という言い方になるほどと思いました。思っていること（感謝の気持ちやうれしい気持ちなど）は言葉やしぐさでどんどん伝えていけばいいですね。

3年：自分の感そう

**わたしはおかあさんとあいさつのことではなし
あいました。人にあいさつすれば、気持ちよ
なったりうれしい気持ちになったりするから、
はなしあいをしているときに、あいさつはだい
じだなとおもいました。これからはあったひと
にあいさつをしていきたいです。**

お家の方から

おたがいにあいさつをすると気分がいいね。お母さんは朝忙しい時に相手の顔を見ないでおはようのあいさつをしてしまうことがあるから気をつけようと思ったよ。今日話したのであいさつの大切さを改めて知ることができてよかったです。



「おうちでほっとタイム」は道徳の題材などを通して、子どもたちがお家の人と一緒に考える取組です。お忙しい中、大変とは思いますが、子どもたちの豊かな心を育てるにはご家庭の協力が不可欠です。どうかご理解の上、ご協力をお願いいたします。今回のお家の人のメッセージに、我々教職員も豊かな気持ちにさせていただきました。ありがとうございます。

災害時の児童引き渡しカード更新のお願い

今年度、本校は県の「実践的防災教育総合支援事業」の対象校となりました。そこで、この機会に災害時の児童の引き渡しカードをより使い易く改良することにいたしました。改良点は以下の3点です。ご理解の上、ご協力をお願いいたします。

- 1 児童の引き取り人に想定される方を、各ご家庭4人に増やした。
- 2 自宅以外の避難先を事前に家族で話し合い、書き込む欄を設けた。
- 3 カードは家庭で保管し、引き渡し時に提示することで引き渡しがスムーズにいくようにした。